



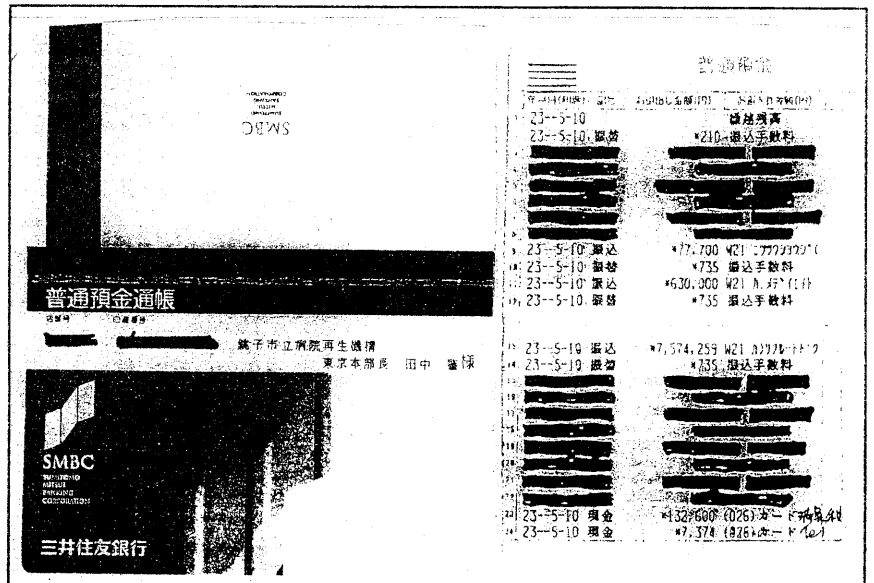
# 田中氏の個人名義の通帳が判明 通帳の中身は黒ぬり、秘密です！

本来、再生機構の資金管理は本部会計と病院会計の2本でよいはず。再生機構が市立病院の運営をしているからです。

ところが写真のように、「銚子市立病院再生機構・東京本部長・田中肇」氏名義の通帳の存在が明らかになりました。この通帳が作成されたのは「東京本部は必要ない」と言っていた笠井元院長が辞任に追い込まれた直後の「平成22年12月2日」に開設されています。なぜ田中氏個人名義の通帳が必要なのか？十分な説明はありません。

## 【理事報酬の振込状況】

- 平成22年度分（理事5人・職員3人分）
  - ◎平成22年7月14日 人件費2175万円
  - ◎平成22年9月15日 人件費4052万円
  - 平成23年度分（理事5人・職員3人分）
  - ◎平成23年4月26日 人件費5332万5千円
- 平成22年度は病院立ち上げの年で、支払いは7月からなっています。平成23年度は4月に一括で1年分が振り込まれています。宣伝広告費も請求金額の満額が一括で



振り込まれています。なぜ、田中氏の個人名義に多額の金額が必要なのか？解明を求めましたが、「個人情報なので、公表できない」とのことでした。結果、明らかになったのは黒塗りの通帳の写しだけでした。

# 田中氏は何をやっていたのか？

これは、田中肇氏のプロフィールです。いろいろなことをやっていますが、銚子市立病院再生については一言もふれていません。

同僚議員の調査と内部告発により、田中氏の給料が理事報酬（後に副理事長）約125万円、東京本部長給与約60万円、1年間で2000万円にもおよぶ高額な給料（報酬）をもらっていたことが市議会で議論されました。野平市長も「銚子の常識ではない（高額）報酬」と認めています。

野平市長は「つぶれた病院の再生は超難問」「プロ集団に任せるしかない」として、田中氏を中心とした再生機構に病院再生を任せました。しかしプロ集団の中心人物である田中氏は、病院再開の2年目、平成23年2月に、モバイルスピーカーの販売会社を立ち上げています。病院再生は「片手間だった」ということで

## AGIUYA SH

ホーム コンセプト デザイン ファイナンス

### 会社概要

会社名：日本コンテンツネットワーク株式会社

CEO：田中 肇

「かぐや」プロジェクト・オフィス：〒104-0061 東京都中央区銀座6-6-1 5F TEL 03-5466-7787

本件のお問い合わせ：information@oceansikroad.com

### 田中 肇 経歴

1946年10月：山口県生

1970年3月：慶應義塾大学経済学部卒業

4月：株式会社タナカゴルフ、田中不動産株式会社の専務取締役に就任

1971年9月：長門カントリー倶楽部(18ホール)を設計し開場

1974年8月：山口ゴルフ倶楽部(18ホール)を設計し開場

1978年9月：下関カントリー倶楽部(18ホール)を設計し開場

1983年5月：上記3倶楽部を統合、山口ゴルフ&カントリー倶楽部(54ホール)とする

11月：株式会社タナカゴルフの取締役社長に就任

1987年1月：株式会社タナカゴルフをタナカインターナショナル株式会社に社名変更

1990年11月：岡山県にTTサーキット英田を設計し開場

1992年1月：自身がデザインしたカバンがエルメスでマレット・タナカの名前で売り出される

1994年4月：F1パシフィックGPを大会会長として開催。同年12月モナコにてF1最優秀主催者賞を受賞

1995年10月：第2回F1パシフィックGPを神戸地震により4月から10月に日程を変更して開催

2002年7月：世界ブルー・ビリーヤード協会の経済促進委員会の委員長に就任

11月：タナカインターナショナル株式会社の取締役社長を辞任

2003年1月：日本コンテンツネットワーク株式会社のCEOに就任

2011年2月：モバイルスピーカー GENELEC 8000A-TANAKA MODEL 開発 (<http://tanakamodel.com>)

